

## 第3回地域包括ケア団地モデル検討会議 議事概要

- ・日時：平成28年1月29日（金） 午後2時から午後3時30分まで
- ・場所：春日井市役所 12階 大会議室
- ・出席者：（委員） 19名  
：（事務局）青柳医療制度改革監、田中地域包括ケア推進室長 他

### —議事概要—

#### 1. あいさつ

青柳医療制度改革監あいさつ  
葛谷座長（名古屋大学大学院教授）あいさつ

#### 2. 報告事項 高蔵寺リ・ニュータウン計画（答申）の概要について

上田春日井市ニュータウン創生課長から、資料1について説明

##### 【説明資料】

資料1 高蔵寺リ・ニュータウン計画（答申）の概要

##### （川口委員（一般社団法人春日井市歯科医師会副会長））

- スマートウェルネスとはどういった街づくりか。

##### （上田春日井市ニュータウン創生課長）

- 本計画は、住民が生きがいを持って社会への貢献を感じながらいきいきと暮らすことを目指している。身体的にも精神的にも健康で暮らしていけるように、例えば、運動設備の再整備や医療福祉サービスの充実を図るエリアと考え、それを周辺地区へ広げていくことを考えている。

##### （森長委員（NPO法人ワーカーズかすが理事長））

- 市長答申前の案も拝見したが、「まちの新たなブランド力の創造と発信」が説明を受けてもよくわからない。ブランド力とは何か。核心をついた言葉ではないと思う。

##### （上田春日井市ニュータウン創生課長）

- 貴重な意見として、参考にさせていただく。

##### （塚本委員（春日井市薬剤師会会長））

- 先行プロジェクトとして、旧藤山台東小学校への図書室、地域包括支援センター等の整備は、盛り込む要素として決まっているのか。

**(上田春日井市ニュータウン創生課長)**

- 要素としては決まっており、その詳細については、今後、所管課と協議して決めていく。

**(高木委員 (石尾台町内会自治会協議会会長))**

- スマートウェルネスはよくわからない。
- 高蔵寺の一番の問題は足である。先導的な主要プロジェクトの中で「交通拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築」とあるが、具体的な話はあるのか。

**(上田春日井市ニュータウン創生課長)**

- 高蔵寺駅と高蔵寺ニュータウン間には高頻度にバスが走っているが課題もある。人口が減少しているが、ニュータウンセンターの地区と高蔵寺駅間のバスを維持していく必要がある。また、ニュータウン内ではサンマルシェバスも住民の生活の足となっており、こちらも維持していく必要がある。加えて、ニュータウンは坂が多いため、例えば、タクシーのようなデマンドサービスを地域の方の協力を得て、導入を検討していきたいと思う。また、スマートモビリティとして電気自動車や電動アシスト自転車等の導入を検討し、ニュータウン内の交通ネットワークを総合的に考えていきたい。

**(高木委員 (石尾台町内会自治会協議会会長))**

- 先行プロジェクトの JR 高蔵寺駅周辺の再整備とはなにか。

**(上田春日井市ニュータウン創生課長)**

- 高蔵寺駅の北口は賑わいに欠けており、市の駐輪場も老朽化している。また、青空駐車も多い。賑わいと呼び込むための施策を今後考えていく。駅の地下道も魅力あるものへ整備し、南口は、朝夕の混雑緩和策を考えていく必要がある。

**(三浦委員 (東高森台小学校区町内会・自治会地域連絡会))**

- きれいな案が出ているが、どうして今までできなかつたんだろうと思う。問題に手を付けなかつたので、今のような状態になっている。計画が実現すればいいと思うが、民間の力があるのではないかと考える。民間団体や企業等と繋がりを強く持って進めていただきたいと思う。

**3. 議題 地域包括ケア団地モデルにおける具体的な取組及び工程について**

事務局から、資料2、3、4について説明

**【説明資料】**

資料2 地域包括ケア団地モデルにおける具体的な取組 (案)

資料3 工程表

資料4 団地モデルのイメージ

**(竹内委員 (UR都市機構中部支社住宅経営部長))**

- 前回の検討会議の中でURの取組内容を説明させていただいたが、昨年12月に高蔵寺ニュータウンの4団地を対象に医療福祉拠点の形成に向けた取組を着手することを正式に公表した。
- また、高森台団地について、団地の一部を集約して規模を小さくする団地再生事業としてダウンサイジングしていくという方向での検討が最終段階に来ている。この事業によって新たに生み出される空間の活用がテーマになってくる。URは県・市・医療介護関係者・住民と連携を図りながら既存の賃貸住宅を活用して、地域包括ケアを推進する医療施設・福祉施設を誘致していきたい。
- 県が具体的に記載している取組は、資料では、やや限定的な書きぶりになっているが、URとしては、様々な観点から医療福祉拠点を形成し、構築に向けて、皆様と協力しながら作っていきたい。

**(高木委員 (石尾台町内会自治会協議会会長))**

- 既存の集合住宅を壊して集約するのか。

**(竹内委員 (UR都市機構中部支社住宅経営部長))**

- URは全国に74万戸の団地を有しているが、その中で高森団地は団地再生事業として一部の集約を検討する団地と位置付けている。具体的な動きとしていろいろ検討している。場合によっては建物を賃貸以外の用途にする。

**(廣野委員 (春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会副会長))**

- 現在介護業界には、介護職員が増えないことや、高齢化という課題がある。URの計画する医療福祉拠点は事業者にとって、魅力的なものになるのか。

**(竹内委員 (UR都市機構中部支社住宅経営部長))**

- 医療福祉拠点の中身については、現段階で決まっていない。具体的な内容は、これから決めていく。また全ての機能が同時にできるものではない。

**(高木委員 (石尾台町内会自治会協議会会長))**

- 高蔵寺ニュータウンにおいて、県、UR、市のそれぞれの取組があるが全体の司令塔はいないのか。話し合いの中で進めていくという理解でよいのか。

**(田中地域包括ケア推進室長)**

- 地域包括ケアの拠点の整備は、基本的には春日井市が中心で行う。県の行う地域包括ケアモデル事業について、他市のモデルは、市が主導となって実施しているが、高蔵寺ニュータウンの団地モデルは、高森台に県有地があり、また大規模な施策となるため、県も一緒に入って検討を行っている。
- 高蔵寺ニュータウンは、特に高齢化が進んで、待ったなしの状況にあるため、早い時期にモデル事業を実施して、他の団地にも広げていきたい。URの医療福祉拠点構築は、今後数年かけて団地

の集約に伴い始まっていくもので、県はすぐにでも取りかかりたいと考えており、時期に若干のずれがある。URが拠点を作るにあたって、市とURの関係の中で、県が参画を求められれば、県も入って協議を進めていく。

**(森長委員 (NPO法人ワーカーズかすがい理事長))**

○ URは、これから取組内容を発表して、住民に話をしていくのか。

**(竹内委員 (UR都市機構中部支社住宅経営部長))**

○ 高森台団地を医療福祉拠点として位置付けたことは12月1日に公表した。団地再生事業の集約の実施については検討中。

**(森長委員 (NPO法人ワーカーズかすがい理事長))**

○ 必ず形にしてもらいたい。鳴子団地は2年前と今とでは、見事な変わり様だった。若い方々も入ってきてくれそうな印象を受けた。思い切った再生をしなければ未来は見えてこない。建物は手を入れないとどんどん古くなっていく。高蔵寺ニュータウンの価値を活かして新たなブランドをつくるのであれば、URだけでなく、住民と連携して、住民が自分の子どもに繋げていけるような仕組みをつくっていただきたい。

**(児玉委員 (日本福祉大学社会福祉学部長))**

○ 拠点の話が中心となっているが、拠点は地域包括ケアの中の一つであり、地域全体をどうするかということが大切になってくる。資料4に「住み慣れた街で「医療・介護・予防・生活支援・住まい」を一体的に提供」と掲げており、医療・介護等はその中心になってくる。それぞれの専門職や事業者が連携して支援するのが基本のシステムになる。それと併せてその前の段階で、総合事業もあり、自立して生活できるようにする、予防・生活支援が必要となる。

○ 説明された11の取組施策の中では、予防・生活支援がきわめて弱いと思う。予防に関する施策は、取組10のみである。高森山を活用した健康づくりも取組の一つとしてあってよいが、各地区ごとの居場所づくりの中でどういう予防的な取組を民生委員や住民・事業者と作っていくかを描かなければならない。

○ 資料4のイメージの「居場所」は予防づくりにもなる。生活支援については取組施策の中では、ほとんど描かれていない。制度にない支援を住民と協力して、居場所を作っていくことを描いていけないといけない。居場所で、生きがい就労やボランティア活動を、できる人に担ってもらう仕組みをつくっていけば、それが予防にもつながる。そういった取組をメインの一つにして描いてほしい。

**(丹波委員 (訪問看護ステーション太陽・高蔵寺管理者))**

○ 訪問看護からの意見としては、顔が見えること、信頼できることが大事である。これから詳細を詰めていく段階で考慮していただきたい。

- 他職種を繋げていくような施策があるとよい。小さい繋がりが広がっていけばよいと考える。関係する人たちが活性化することが大事である。

#### **(水野委員 (地域包括支援センター春緑苑))**

- 居場所づくりについて、地区社協の方々が住民交流の企画を行っているが、サロンも担い手が高齢な方が多いので、若い方にも参加してほしい。学生などに高蔵寺ニュータウンに住んでいただいて、地域ボランティアへ参加するような仕掛けを考えていただけるとよいと思う。地区社協の取組にも活気が出る。
- 集会所が古くなっており、自立度の高い高齢者が使用する分にはよいが、自立度の低い方には使いつらいため、改修してほしい。

#### **(竹内委員 (UR都市機構中部支社住宅経営部長))**

- 中部大学、春日井市とUR都市機構は平成26年12月に確認書を交わし、高蔵寺のUR団地に学生に住んでもらい、ボランティアや地域コミュニティに参加いただいている。現在20名ほどの方にお住まいいただいている。医療介護拠点のコンセプトの一つにミクストコミュニティがあり、今後も推進していきたい。

#### **(福井委員 (春日井市医師会会長))**

- これまでの検討会議で課題として高森台に医療機関が少ないという御指摘だった。春日井市医師会の中でも毎年4箇所程度の新規開業があるが、交通の便が良い春日井市の西部の勝川駅辺りに集中している。高蔵寺駅周辺は、閉院はあるが開業希望がない。
- 交通の便について、医院が自前でバス等を準備することは難しい。市の援助等、様々な形で整備して欲しい。
- 高蔵寺ニュータウンは医院単独で開業するには厳しいため、医療介護等の拠点を作って、医院を公募すれば開業希望がでてくると思う。

#### **(葛谷座長 (名古屋大学大学院教授))**

- 地域包括ケア団地モデルは、高齢者のことだけを考慮して構築すると街は沈んでしまう。学生など若い人が継続して居住していくような仕掛けが必要である。

#### **(服部委員 (中部大学教授))**

- 取組4に地元関係者等による推進連絡会議があるが、今後、ここで地域の方と継続的に話し合いながら具体的な取組を進めていこうということだと思うので、期待をしている。

#### **(宮澤委員 (春日井市健康福祉部長))**

- 地域包括ケアのモデルとして、拠点にサービス付き高齢者住宅を作るのであれば、そこに併設する在宅療養支援診療所・訪問看護等は、戸建等の周辺住民へ医療等のサービス提供ができることが

望ましい。春日井市としても高蔵寺リ・ニュータウン計画の取組として推進していきたい。今後、医療介護拠点づくりに手を挙げる業者がでてくることを期待する。

**(柴山委員 (あさひが丘ホスピタル名誉院長))**

- 取組8について、小学生、中学生を対象に認知症やフレイルなど高齢者に関することを学習に取り組んでいただきたい。2004年から名古屋市千種区にて認知症地域連携の会を行っている。行政・医師会を中心に、多職種で連携し、市民講座や専門職研修会を行っている。その中の取組で、名古屋市立城山中学校にて、自分は認知症の医学講座を実施し、また、認知症ケアの専門家に認知症ケアの講座を担当してもらい、その2週間後に施設見学等行い、非常に好評だった。こういった学習や高齢者等との交流は重要である。

**(田島委員 (田島クリニック院長))**

- 去年1年間で認知症徘徊者は春日井市で110人であった。側溝に落ちて亡くなった方や、包丁を持って出歩いた方もいる。大声をあげながら自分のクリニックに来られた方もいた。認知症の方は様々な行動を起こすことがある。愛知県警春日井警察署生活安全課が対応しているので、警察関係の方も検討に入っていただきたい。

**(田中地域包括ケア推進室長)**

- この検討会議は次回で終わりとなるが、今後、地区で開催される会議では警察関係の方の参加も検討してみたい。

**(高木委員 (石尾台町内会自治会協議会会長))**

- 高蔵寺ニュータウンには、若い人に住んでもらわないといけない。若い人を呼ぶには、教育が大事である。高い教育があるエリアは人が集まるのではないか。高蔵寺リ・ニュータウン計画の説明会では小中一貫校を作る意見も出ていた。若者を呼ぶ手段の一つとして春日井市に検討していただきたい。

(以上)